カトリック通信３６号　**一粒の麦**

ノートルダム清心中・高等学校
２０１８年3月１６日

«聖書のことば»　ローマの信徒への手紙５章３～４節

わたしたちは知っているのです、
苦難は忍耐を、忍耐は練達を、
練達は希望を生むということを。

今年度も学びと体験、そして、たくさんの方との出会いをいただけたことに感謝致します。
私たちが神からいただいている様々なものを受けとめ、新たな一歩を踏み出す希望にしていくことができますように。

保護者の皆様には、今年度も、本校のカトリック教育に際しまして、ご理解・ご協力くださり、ありがとうございます。今年度末のカトリック通信「一粒の麦」では、今学期に取り組んだカトリック行事やボランティア活動の内容をまとめて、ご紹介しております。どうぞお読みください。
また、日本のカトリック学校の保護者に向けて年３回発行されている「よき家庭」も配布いたしております。こちらもどうぞお読みください。今年度も、さまざまな活動へのお心配りをいただき、ありがとうございました。来年度も改めましてよろしくお願いいたします。

3学期の活動から

○2018年1月22日：静修の日（高Ⅲ：63期）　テーマ「GIFT」

「センター試験」の余韻さめやらぬ２２日、朝から静かにみぞれ状の雪が降る中、マリアンホールをメイン会場として、カトリック山口教会のルイス・カンガス神父様（イエズス会）のご指導のもと、高校生活をふり返る時間を持ちました。厳粛ながらも、高校Ⅲ年生の意欲や活力、未来への志が聖歌や「ハレルヤ・コーラス」の高らかな合唱にも込められた一日となりました。1926 年、スペイン生まれの神父様は、９１歳というご高齢ながらも、カンボジアやアフリカ諸国を飛び回り、貧窮の中に生きる子どもたちと共にあり続けていらっしゃいます。その豊かな体験から、生徒たちに対して、「目標」を持つことの意義、それに向かって自分自身を役立てることのすばらしさ、人類の社会で共生していくことの大切さを、ご講話の中で力説されました。
「キャンドル・サービス」の火を共に見つめながら、「分かち合う」ことによって、人々の愛情や関係はますます大きくなっていくことを諄々とお話下さり、それを世界を舞台に実践していくことのすばらしさを伝えて下さっての後……突然に、「マジシャン」に変身なさった神父様に、高Ⅲの生徒たちも童心に返ったかのように大喜びしていました。寒い一日でしたが、マリアンホールは、暖かく熱にあふれた空間となりました。
同窓生として、多くの人たちと分かち合う未来があることを祈ります。

○中・高NDA（Notre Dame Action）委員会の活動

災害の被災地やボランティア情報の掲示、口と足で描く芸術家協会への協力、チャイルドファンドジャパン募金、ベルマーク・書き損じはがき・ペットボトルキャップ・プルタブ回収、ＪＲ西広島駅構内清掃など身近なボランティアを積極的に行いました。高校生を主体に八幡学園を訪問したり、「もみじ作業所」のクッキー販売をお手伝いしたり、書き損じはがきを広島県視覚障害者団体に送付したり、「空飛ぶ車いすプロジェクト」に送ったりしました。この「空飛ぶ車いすプロジェクト」に関して、以下、概略を添えます。
前学期に実施した「車いす講習会」を体験し、自分たちにも何かできることはないかと考えた高校ＮＤＡ委員長・副委員長は、西区社会福祉協議会を訪問しました。その施設内の地域福祉センターの掲示板に「書き損じはがき１００枚で車いす一台を送ることができます。」と広報があり、その主旨に参加することに委員会の賛同を得て、約２００枚の書き損じはがきをこの「プロジェクト」に送付しました。他方、西区社協の方から「こでまりの会」を紹介された委員長たちは、新年１月７日に、この会の新年会に参加し、車いすユーザーの皆さんと交流しました。その感想が、「西区ボランティア活動情報紙：西ボラ・かわらばん」にも掲載されました。委員会の機関誌「もぎたてＮＤＡ」と併せてご覧ください。

「ビンゴ大会や、皆さんのお話を聞くことを通じて、車いすユーザーの方々のことを知ることができ、私にとって貴重な体験ができました。」（Ｎさん）
「私たちの学校の委員会でも、もっと車いすの方々と寄り添えるよう精一杯学んでいこうと思いますので、これからもよろしくお願いします。」（Ｓさん）

本年度も、多くのボランティア活動に際しまして、保護者・ご家庭の皆様からのご協力を賜り、ありがとうございました。来年度も、よろしくお願い申し上げます。

【「こでまりの会」について】
車いすの障がい者を中心に、会の活動に賛同している健常者の人たちと一緒に花見をしたり、野球観戦やハイキング、街の点検活動などを通して、すべての障がい者が社会参加できることを目的に活動している福祉団体です。

○1月25日：ボランティア学習とブラインドウォーク（中1）

５時間目は NDA 委員を中心に各クラスで、ボランティア活動とはどのようなものなのかや清心での取り組みについて学びました。その後、６時間目には初対面の方に対して親切な誘導ができるようにするために、他クラスの人と二人一組になり、アイマスクをした人を誘導するブラインドウォークと、白杖を使用して障害物のある廊下を歩く体験をしました。
多くの人たちは、いわゆる「健常者」として、毎日使用する校舎での生活や階段・障害物に対して何らの抵抗も感じないでしょうが、いざアイマスクをして歩き馴れているはずの校舎をまわってみると……ふだんの状態では感じない不安や恐怖の念を抱いたり、周囲の様子がわからない戸惑いを覚えたり……。改めて、視覚に障がいを持っている人の不便さを実感したり、誘導者や動物の存在にありがたみを感じたりしたのではないでしょうか。このことが、社会全体のノーマライゼーションへの関心に結びついてくれたら、と願っています。

○1月26日：新校舎「ノートルダムホール」祝福式および「小聖堂」献堂ミサ

保護者の皆様や同窓会の皆様のご厚志を賜り、三年前から建設が進んでいた本校の新校舎「ノートルダムホール」がこのたび完成に至りました。特に、保護者の皆様には長年月にわたるご支援やご助力に謹んで感謝申し上げます。

「落成式」（２月３日実施）を前にして、この日、カトリック幟町教会からヴイタリ神父様（イエズス会）をお招きして、新校舎がより有意義に生徒たちの今後の学習や諸活動・各種行事などに活用されますように、神に祈り、完成に感謝する祝福式が厳かに実施されました。その後、「祈りの部屋」から、キリストの体であるご聖体を新校舎の「小聖堂」に移し、ひき続き、献堂ミサを行いました。落ち着いたたたずまいを見せる小聖堂が、私たちの祈りの新しい空間となり、静かな時を過ごすことができますように願います。

○2月22日：ボランティア学習と手話講習会（高Ⅰ）

クビリーホール講堂に、ボランティアの皆様をお迎えして、二時間連続で聴覚障がいを持つ人たちとの共生について学びました。５時間目には、手話サークル「麦」の皆さんによる手話講習を受け、簡単な自己紹介とあいさつなどが手話でできるようになりました。６時間目の最初には、「聴覚に障がいがある人たち」の立場に寄り添うという意味で、ヘッドホンを耳にかぶせて聴力を落とし、うしろから呼びかける人の声がどれほどの距離で本人に届くのか、講堂のステージ上で「実験」しました。日頃の聴力によるのか、あるいは講堂の静けさ故か、ふだんの交友関係の濃さなのか、皆さん、すぐに呼びかけに反応していましたが、実際に障がいを持っている人にとっては、いろいろな不便があることを、講師の鶴川偕子さんのお話を通して伺うことになりました。大きく手話を用いながら、ご自分の生い立ちや障がいを持っている人と共に生きることの大切さを、心を込めてお話くださいました。その講演後に、生徒たちは「世界に一つだけの花」を手話で歌い、鶴川さんと手話サークルの皆様に感謝の気持ちを伝えました。

○3月10日：東日本大震災犠牲者追悼・復興のための祈りの集い

今年も３月１１日を前にして、全校生徒で東日本大震災で犠牲になった方々を追悼し、被災者、そして復興のために力を尽くしていらっしゃる人々のために祈りました。全校生徒で亡くなられた方々に黙祷を捧げ、被災された方々のため、また私たちが他者の痛みに寄りそえることができるよう心を合わせて祈りました。現在、本校在籍の生徒の震災当時の学年は、幼稚園・年長～小学４年生ということで、記憶の風化を招くかのような時間が経過しましたが、来年度も引き続き、私たちにできることに取り組んでいきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

○3月13日：静修の日（中3） テーマ:「 道 ～向かうべき場所へ～ 」

カトリック宇部教会の猪口大記神父様（広島教区）のご指導のもと、中学校生活の３年間を感謝の心でふり返りました。講話では「道は向かうべき場所にたどり着くためのものではなく、向かうべき場所こそが道である。その道を狭きものとするか、豊かな可能性が広がるものとするのか、立ちどまったり、振り返ったりしながら、恵みに感謝しつつ歩みを進めることが大切。」というお言葉をいただき、ミサの説教では「タラントン」のたとえ話をふまえられ、「自分に与えられたタレント（才能）を存分に活かし、向かうべき場所を豊かに拓いてほしい。」というお話をなさいました。

この日の教えや得たものを恵みとして、来たるべき「道」たる高校生活を堂々と歩んでほしいと願います。

○3月14日：ボランティア活動ふりかえり（中2）

今年度、中学２年生で新たに取り組んだグループ別のボランティア活動に関して、模造紙を利用した「ポスターセッション」を実施した後、先輩である竹安美彩さん（52 期：広島大学病院歯科勤務）の『ボランティアの心をみがくアドバイス』と題された講演を聴きました。ご自身の闘病経験から大学時代に献血推進の活動に取り組み、その実体験から、「大切な人たちを思う活動」「ともに行動するボランティア」を身近なところから実践していくことを静かに語りかけて下さいました。今後の実践に是非とも活かしたいお話となりました。

献金のご報告

毎年、学園祭バザーの収益より社会福祉活動費として、本校生徒がお世話になっている施設やキリスト教関係の施設・団体などに献金させていただいております。ご報告とともに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ノートルダム国際援助基金（ジンバブエ教育活動援助）
カトリック仙台教区サポートセンター（東日本大震災復興支援）
カリタスジャパン（メキシコ地震復興支援）
カリタス熊本（熊本地震災害復興支援）
広島修道院・乳児院（児童養護施設）
八幡学園（広島市／児童養護施設）
きつつき作業所（広島市／授産施設）
かしの木後援会（呉市／知的障がい者授産施設）
広島ひかり園（廿日市市／身体障がい者入所授産施設）
もみじ作業所（広島市／授産施設）
広島キリスト教社会館（社会福祉事業団）
社会福祉法人光の園（廿日市市／児童養護施設）
カトリック広島司教区　児童福祉の日（児童福祉のための献金）
えんぜるふぃっしゅ（広島市／ダウン症児童生徒とその家族支援）
宗教法人カトリック　イエズス会　旅路の里（釜ヶ崎労働者支援）
太陽の町（東広島市／重度身体障がい者施設）
社会福祉法人　ロゴス点字図書館＜ぶどうの木＞（点字図書普及）
バッタンバン友の会（広島市／カンボジア・アフリカ支援）
広島夜まわりの会（野宿労働者支援）
西中国キリスト教社会事業団　清鈴園（廿日市市／被爆老人養護施設）
社会福祉法人　広島いのちの電話（悩み事電話相談）
日本カトリック障がい者連絡協議会（カトリック障がい者連合会支援）
海外宣教者を支援する会（日本カトリック海外宣教者支援）
こどもの里　ともの会（大阪市子どもの家事業　カトリック大阪大司教区）
社会福祉法人　光の子会（障がい児童施設）
アジアキリスト教教育基金（東南アジア児童教育支援）
日本国際ボランティアセンター〈ＪＶＣ〉（アフリカ　エイズ遺児への支援）
めぐこ・アジアの子どもたちの自立を支える会（ｲﾝﾄﾞ・ﾌｨﾘﾋﾟﾝ児童教育・医療支援）
日本キリスト教海外医療協力会〈ＪＯＣＳ〉（アジア・アフリカ保健医療協力支援）
公益財団法人　アジア保健研修所（アジアの地域保険・開発ワーカー育成）

合計６０万円

次号は、２０１８年度の１学期末の予定です。（カトリック教育研究部会）